

年頭の「ごあいさつ」

佐世保市長 光武 顕



一年を振り返って

新年明けましておめでとございます。ことしもまた、市民の皆さまがご家族おそろいで幸せな新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

さて昨年は、回復基調にあった日本経済が、年の後半から急速に活況を示し、11月には小泉政権後初めて平均株価も一万五千円を突破するなど好調ぶりが伝えられました。雇用率の上昇もあって、国民は明るい希望を新年に託すことができたと言えるでしょう。

しかし一方で、地方に目をやると

名古屋、福岡など一部の都市を除くと回復の道は遠いようです。雇用状況を示す本市の有効求人倍率は、一時の0.5を上回る0.63（平成17年10月末現在）となっておりますが、全国レベルでは低位にあります。

中小都市の経済は戦後一貫して公共事業に支えられてきました。現在、国内の経済は、IT産業などさまざまな分野で活況を呈しているものの、財政難の中、公共分野の予算削減が地方に大きな打撃を与えています。本市でも最も多いときに比べ公共事業は半分以下となっております。

一方、主要産業である佐世保重工業は久し振りに活況が戻りました。物流の増大による海運業の盛況の波に乘れたからです。今後数年分の受注も確保されているとのこと。

観光産業の新しい動き

本市の産業の柱の一つ観光では、させばパール・シー（株）が市交通局から引き継いだ後の九十九島遊覧船の乗船客数が、目標より一年半早



就航後乗船客が急増した九十九島遊覧船パールクイーン

く百万人目を達成しました。また、西海パールシーセンターの水族館拡充も視野に入ってきました。構想から設計へと進んでおり、今後施工へと進む際には市民の夢を膨らませる市民債の発行も考えています。

ハード、ソフト両面による経営改善に大きな期待が持てるでしょう。海外からの観光客誘致は、平成16年の2回、中国の大連、青島両市を訪問した際、確かな手応えを感じました。12月には、両市から政府やテレビ局、観光旅行社などの視察団が来訪して、ハウステンボスや九十九島などを視察し、互いに本音で意見交換ができました。中国でもようやく海外旅行の気運が高まってきているようで、ぜひこの機をとらえて海外客の誘致に力を入れたいと決意しているところです。



大連市のラジオ番組に国際電話で生出演し、佐世保の魅力は大連市民にアピールした光武市長（市長応接室）

市町村合併



小佐々町との合併協定調印式

宇久町との合併協定調印式▶

昨年は、吉井町、世知原町と合併しましたが、ことしは3月末に宇久町、小佐々町と合併します。吉井、世知原両町の旧町議会議員の皆さんは、地域審議会の委員として活動されています。市議会終了後には、行政側との意見交換の場で活発に発言され、委員として責務を果しておられます。ことしの3月からは、宇久町、小佐々町の議員の皆さんも同様に、地域審議会委員としての約一年間、新しいまちづくりを力貸していただけるものと期待しています。まさに、新生佐世保市の実現に向けて動き始めました。



J R 佐世保駅周辺市街地

佐世保駅周辺再開発事業

開発に約10年を費やした駅周辺再開発事業も、ようやく終わりに近づきました。ことしはいよいよポータルネットワーク21計画で整備された港口の広大な造成地の分譲に入ります。既存市街地と相乗効果を生むような「まちづくり」ができればベストですが、そのことを視野に入れながら最終的な決断を迫られる年になるでしょう。

ところで、駅周辺再開発によって起きた顕著な現象は、「住まい」の中心市街地への回帰です。高齢社会を迎え、利便性や安全性を求めて人々が街に戻ってくる回帰現象はドーナツ現象とは逆のものです。この傾向は、コンパクトシティ（中心部に住まいや商業施設などさまざまな機能を集めた街）の契機になるかもしれません。

相浦地区の大型商業施設建設計画

昨年11月、本市は相浦地区に進出が予想される大型商業施設建設計画に関して公聴委員会を設けました。建設計画の予定地となっている農用地は約20億円で公共での圃場整備が行われ、市としては優良農地として位置付けています。

一昨年ごろからこの大型商業施設が進出するとの話があつていましたが、昨年「農用地除外」の申し出があり、その後も反対と賛成両方の請願や陳情などが市議会や行政当局に提出されています。

これまで、市のまちづくり基本計画やマスタープラン策定に対し、市民の反応はあまりありませんでした。しかし今回は、市民のご意見を募集してから約1カ月で、三百通を超えるご意見が電子メールや封書で寄せられるなど、数多くの市民が進出の是非に意見を戦わせています。

佐世保の現在と未来を見つめ、「まちづくり」とはどうあるべきかを市民の立場で考えることは大切です。最終的には、市長としての責任で判断したいと思えます。公聴委員会で活発に意見が出されていますが、市民の間でも、中味の濃い、掘り下げた議論が展開されることを望んでいます。



▶佐世保港と市街地 九十九島

